

7/22からの夏期講座、今年はほとんどの生徒が宿題を終えた！！



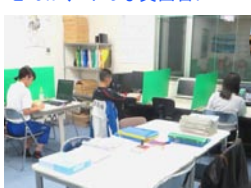
夢は遠くは
近頃は
いつも
自分だ！



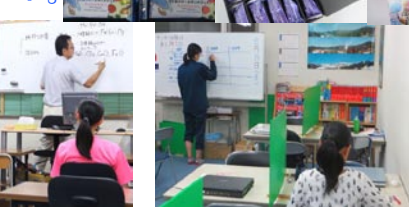
8/10、11の道コン、見直し、結果を踏まえて面談



高校生には夏期講座はありませんが、みんな真面目に！



沢山の差入やお土産をも
らいました！ありがとうございます。



64分の1の大きさの鶴を折る杏奈さん

景中2年の定期テストの理科対策授業、古川君と藤井さん

テストに向けてホワイトボードで確認する江南、富岡さん

孝仁会病院での言語聴覚士の実習が終わり顔をみせた井沼さん



毎月、差入れどっさりの市立病院の放射線技師、19期生の住川さん

国学院大学卒業後、証券会社に勤務2年目の18期生の織田君、久々

歯学部3年生で17期生の秀哉と20期生で弟の宏哉の栗野君兄弟

いよいよ来年の春には、看護師になれそうな14期生の仲村さん



札幌はな発達サービスの施設長の8期生で富中出身の石山君

8期生で北病院に勤務し、作業療法士会銅根支部、支部長の佐々木君

問題があった富小のバスケット部全員を家に呼んで説教、6期生の野澤君

私のマンション管理組合のイベントに参加した6期生の岩淵君親子

公立高校入試まで **189**
センター試験まで **あと137日**

一週間があつという間に過ぎることを考えると、それ程時間があるようにも思えません。毎年あつという間にその日が来ます。中三生の受験スケジュールは、第一段階が8月まで、第二段階が学力

★カウントダウン開始★
あつという間に8月が終わり一年の3分の2が過ぎ、17年度も後半に入りました。9月、中3生はいよいよ学力A、B、CのAテストが、そして、ほとんどの中学校、高校では定期テストがあります。中3生は3月6日の入試までおよそ6ヶ月、高3生は1月13日のセンター試験までおよそ4ヶ月とだったのでカウントダウンを開始しました。日数を見ると、まだかなりあるように感じますが、週で数えるとそれぞれ26週と19週です。

A、B、Cのある9月から11月、そして第三段階が12月から2月の3ヶ月です。この3ヶ月、90日間が本当の受験勉強です。学力テストの結果をふまえ志望校に向けて本気で取り組みます。もちろん9月、10月、11月の学力テストは重要です。12月の三者面談の資料となります。一日一日を無駄にせず、目的意識を持って取り組むことが大切です。何のために、誰のためにやっているのか分からない勉強では結果など出ません。受験をする高3生はできる限り毎日、塾に来て勉強すること、模試の結果をふまえた弱点克服に時間をかける必要があります。偏差値47、48なら52、53位には必ずなります。高専生を除いた他の高校1、2生は推薦での受験を考えている人以外は、あまり定期テストに振り回されることなく、それぞれの受験科目の基礎をしつ

かり身に着けることが大切です。そのためには中学校の時のように週3、2時間でもいい訳がありません。できる限り塾に来て勉強するようにして下さい。全道、全国の生徒を相手にするには、志望校に向けて本気で取り組む以外ありません。勉強時間数が増えれば、その分は必ず結果に結びつきます。要するに毎日の学習が大事なのです。今月は定期テストですが、中学生の一〇〇〇分特定期テストの結果は内申点に大きく影響し、高校受験では学校ごとに必要な内申ランクがあります。成績の良い、成績の上がる生徒は、頭が良いのではなく、言われたことを素直に実行する生徒です。塾でも家庭でもやらなければならない事はやる！

★漢字検定の合格者★
7月14日に行われた29年度第一回の漢字検定、十五名が受験し合格者は
準二級 福士千悠(高二)
三級 磯部葉那(中三) 田中花音(中三) 米原広務(高二)
四級 福士大陸(中二)
五級 田中杏奈(小六) 成瀬和(中二) 古川一心(中二)
六級 古川逢来(小六)
七級 田中心花(小五)
の皆さんでした。おめでとうございます。
次回、第二回は11月にありますが、人数が集まれば(10名以上)実施したいと思います。希望する人は早めに知らせてください。

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
土	金	木	水	火	月	日	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金
						●休塾	●秋分の日		●美原・共栄定期	●阿寒・富原定期		●敬老の日	●休塾				■学力Aテスト		■湖陵定期15		●休塾	■学力Aテスト対策	●鳥取西定期	●北中定期	●景雲・遠矢定期	■江南定期8 北陽7 武修6	●休塾			

携帯電話の持込は禁止。
連絡は塾の電話を使用して下さい。

9月の予定

保護活動住民生活を守る 守り、生かす～豊かな大地、後世に

釧路市内洪水免れる

昨夏、道内に複数の台風が上陸、接近し十勝など内陸部を中心に集中豪雨による甚大な水害が相次いだ。釧路温原の下流に位置する釧路市内は洪水を免れた。湿原が天然の水がめとなり、上流河川からの土砂を含む雨水が一気に下流河川に流れるのを防いだためとされている。

釧路湿原は面積約2万6000㌔と国内最大の湿地だ。1980年にこのうちの約5000㌔が水鳥の生息地として国内初のラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）に登録され、87年には湿原そのものが守るべき自然として国立公園に指定された。しかしそれ以前の農地開発などで本来植生していた2万㌔近くのヨシヤスゲ群落は1万㌔を割り、代わりに乾燥した場所で育つパンノキ林は約2000㌔から8000㌔と4倍に増え乾燥化が進んだ。

本来の植生に戻そうと2003年に発足した官民からなる釧路湿原自然再生協議会は、六つの小委員会で9事業を行っている。このうち河川の復元などを行う「旧川復元小委員会」では釧路開発建設部治水課が現在3事業を担っている。

土砂の流入4割軽減

昨年8月の豪雨の際、下流市街地への洪水を防げた要因の一つに、10年に完了した茅沼地区（標茶町）の釧路川蛇行復元事業が挙げられる。1980年に土地利用のため直線化した河川部分を埋め直し、湿原中心部に土砂が流れ込むのを軽減するのが目的の一つだが、昨年の豪雨時には氾濫箇所が旧河川などに分散され、湿原中心部への流入を約4割軽減できた。土砂の流入を抑制できたことで湿原全体で最大約2100万立方㍓（東京ドーム約17杯分）の雨水をためられ、洪水対策として造成された新釧路川に流入する速度を抑えられたと、同課は分析している。

まさに長年の自然を守る活動が、住民の生活を守った例と言える。小澤徹上席治水専門官は、今年度以降現地モニタリングでさらに詳しく効果を分析し「湿懐の持つ防災機能を広く伝えていきたい」としている。（五味亜希子）釧路新聞より



学力テスト 道内 全国平均届かず

4教科合計 小学校41位 中学校28位

道教委が28日2017年度全国学力テストの調査の結果を発表した。釧路新聞8.29

調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に4月18日に実施。小学生が93.1%にあたる971校で3万5802人、中学生が93.5%の559校3万7265人が参加、国語と算数(数学)の知識(A)と活用(B)の各4教科で行われた。

平均正答率は、中学校が国語B以外で全国平均との差は広がったが、最大でも数学Bの1.2ポイント。3年前の小6時に算数Bで3ポイントあった差を大幅に縮め、全国での順位も4教科全てでアップ、全国平均との差は4教科合計で16年度の12.4点差から3.3点差まで迫った。

一方で小学校は全教科で全国との差を縮め、最大でも算数Bの2.4ポイントまでに改善した。しかし、国語Aの漢字書き取りでは「参加対象」の正答率は40%を切り、無回答も12.7%に上り、国語Bで9問中7問、算数Bは11問中10問で無回答率が全国を上回る状態。教科別比較では全国の35位から44位程度に位置し、4教科合計でも41位と低迷は続いている。

道教委では、学校の授業改善と望ましい生活習慣の改善確立を目標に取り組んできた。合わせて実施した学習状況調査では、授業冒頭で目標を示し、最後に確認の振り返りを行うなど、授業改善の取り組みが向上していることが学力改善に結び付いたと評価。しかし、子供の受け止めは、いまひとつで、実感までにはまだ届いていないとも分析している。

子供たちの生活習慣では、「1日1時間以上勉強する子」の割合は小中とも増加、小学校で18.6%（全国27.1%）、中学校29.9%（同35.4%）となった。しかし「3時間以上テレビやビデオ、DVDを見る子」が小学生36%（全国32.7%）、中学生27.5%（同25.3%）に上り、「携帯電話やスマホで通話やメール、ネットを3時間以上する子」の割合も小学校が9.5%（同6.6%）、中学校22.4%（同18.1%）に増加、依然改善にまでは至っていないこともわかった。



心が折れそうな17歳、手帳に挟んだ言葉が救ってくれた

■小さいのち 大切な君

東京都内に住む高校3年の女子生徒（17）の手帳には、何枚かの手書きのメモが挟んである。「自分を責めない」「他人の言葉は気にしない」「自分を大切にする」。クリニックの先生が通院のたびにくれる。心が折れそうになると、読み返す。

女子生徒がスマートフォンの「LINE」のタイムラインに自殺を意図した書き

込みを始めたのは中学3年の冬だった。

いじめを受けていた友達に誘われて一緒に学校を休むようになったのをきっかけに、不登校気味になっていた。学校をサボるのは快感だったけど、罪悪感もあった。学校に行けない自分の存在価値が分からなくなっていった。

「この先どうするの」という母とケンカが増えた。妹たちと比べ、とりえがないようにも感じていた。生まれたことが間違いだったのではと思い、「なんで産んだの?」と言い返した。母が陰で泣いているのを見て落ち込んだ。「なんて自分はダメなんだろう。またママを傷つけちゃった」。リストカットを始めた。

支えてくれる大人もいた。保健室の先生。週2回ほどの登校は保健室に寄ってから。遅刻しても叱られず、「よく来たね」と言ってくれた。夢ができた。「将来、私も保健室の先生になりたい」

高校に進んでしばらくすると、友達や家族の悩みでまた気持ちが不安定になった。テストの順位も落ち始めた。昨年9月、先生から部活動に出ることを禁じられた。居場所がなくなったと感じ、学校のトイレでまた自分を傷つけた。母の顔が浮かんだ。

学校から帰り、自傷行為を告白すると、母は家を飛び出していった。母が精神疾患の治療を受けており、過去に何度か自殺を考えたのを知っていた。「ママが死ぬなら……」と思い込み、「私も」と自宅アパートの屋上に立って地面をのぞき込んだ。「やめて!」。追いかけてきた妹たちの泣き叫ぶ声でわれに返った。

いま頼れる大人は、精神科クリニックの40代男性の先生だ。母の主治医でもある。17歳の誕生日には母が手紙をくれた。「ママを助けようがんばってくれる」「自分を肯定できるようになった」……。びんせん3枚につづられた50のほめ言葉。最後は「いつでも力になるからね。I LOVE YOU」と結ばれている。

学校や友達、家族のこと、自分の将来。今も、いろんなことで悩むけど、頭がいつぱいになったとき、この手紙や主治医のメモを読み返すと、ふっと心が落ち着く。

主治医は、女子生徒に「自分を大切にすることが、お母さんとか大事な人を大切にすることになるんだよ」と話しかけている。そして、孤立を感じないように「いつでもクリニックに電話して」と伝えている。

10代の心を支えてきた主治医は言う。「助けを求めることをちゅうちょしないで」「私たち大人は、子どもを孤立させずに手を差し伸べ、そばにいて悩みを聞く存在でありたい」

■悩む子ども、大人が多面的に支援

学校と医師が連携し、悩む子どもを多面的に支える取り組みが始まっている。三重県内の一部の小中高校では12年前から、子どもの「心の健康度」をはかるアンケートを行っている。県医師会が県教育委員会の協力で始めた。県医師会学校メンタルヘルス分科会長を務める、児童精神科医の長尾圭造さん（72）が結果を個別に分析し、教師らに助言する。

2014年の中学生687人のアンケートでは、9%が「死にたくなる」と回答し、3%は過去1年間に「死のうとした」と答えた。「自傷行為をした」は2.5%いた。ある中学校の学級では数年前、生徒32人中4人が「死のうとした」と回答した。うち1人は担任との面談で、親に叱られて自宅のベランダから飛び降りようとしたと打ち明けた。

この生徒のアンケートの回答を分析した長尾さんは「甘えたい願望が強い」と指摘。生徒には年下のきょうだいが複数いて、「親はいつも『年上なんだから』と言う」と担任に不満をもらしていた。勉強や行事には前向きな生徒で、担任はそれまで以上にほめるようにした。

別の生徒は、苦手科目や母親との関係に悩んでいた。担任はスクールカウンセラーに相談し、苦手科目を個別に教えることに。母親自身も大きなストレスを抱えていたため、専門家のカウンセリングを受けるよう助言した。

担任は「アンケートがなければ、死にたいほど悩んでいると分からない生徒が多かった。精神科の先生の指摘も、その後の生徒への接し方を工夫する上で非常に助かった」と振り返る。

ただ、こうした取り組みは一部の地域に限られる。

児童精神科医は全国的に不足している。日本児童青年精神医学会によると、認定医は316人（17年3月）。米国には20倍超の約7千人いる。

四国こどもとおとなの医療センター（香川県）の児童精神科は予約から初診まで約5カ月待ち。緊急のケースはできるだけすぐに診るが、受診待ちの間に自殺未遂した子どもが複数いた。22床ある入院ベッドでは足りず、自殺の恐れで緊急入院が必要な子を、成人の精神科に紹介せざるを得なかったこともあった。

中土井芳弘・児童精神科医長（41）は「発達障害などの受診も増えているのに、医師数もベッド数も足りない。国や自治体は早急に対策をとってほしい」と訴える。